

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	名古屋大学	整理番号	1-3-042
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	教員の自発的な授業改善の促進・支援 －授業支援ツールを活用した授業デザイン力の形成－		
申請単位	大学全体		
申請担当者	黒田 光太郎		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、教員の自発的な授業改善の促進・支援を目的に、授業改善のための方法論を開発し、その具体的な実践手段を個々の教員に提供する活動である。</p> <p>授業改善のキー概念として本取組が重視する授業デザイン力は、授業を成功に導くための設計・戦略であり、シラバス設計、各種教授法、成績評価等のスキルからなる。とりわけ重要なシラバス設計スキルとは授業目標、授業計画、授業時間内外の課題を設定する能力である。一連のスキルの総体＝授業デザイン力の形成を通じて授業改善の実現をめざす。</p> <p>授業デザイン力形成の中心手段である『成長するティップス先生』は、授業改善のヒント・ノウハウを提供する。その応用編であるゴーイングシラバス（ウェブ上でシラバス作成を行い、併せてその作成能力の習得・向上を図る）や全学的FD研修（授業改善ノウハウの伝達等）とともに、教員が自発的にかつ無理なく授業改善を行えるよう支援している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、平成10年4月から名古屋大学が高等教育研究センターを中心として教員の自発的な授業改善の促進・支援を行うことを目的に授業支援ツールを開発し、極めて具体的な実践手段を教員に提供するというものです。具体的には、FDに戸惑う教員のために授業改善のノウハウやヒントをわかり易く表現した『成長するティップス先生』の制作、ウェブ上のシラバス「ゴーイングシラバス」の開発に成功し、現在教育の質の向上とFD活動の推進に一定の成果を上げています。学生の授業評価を通じて、その効果は見て取ることが出来ます。</p> <p>本取組は、全国的に注目され、『成長するティップス先生』8,000部（ウェブ版アクセス月2万件）、多数の学外からの講演の依頼などからも、他大学や短期大学の参考になり得る優れた事例であるといえます。</p> <p>今後の課題は、学内における取組の拡大、学生の成績向上の検証、『ティップス先生』と「ゴーイングシラバス」の見直し、ツールの改善等に一層の努力と工夫を重ねられることにあると思います。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	三重大学	整理番号	1-3-051
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	社会のニーズに即した人間性豊かな医師養成 —地域社会を学びの場にして—		
申請単位	学部単位		
申請担当者	津田 司		
<p>(取組の概要)</p> <p>三重大学の教育目標である『「感じる力」、「考える力」、「生きる力」がみなぎり、地域に根ざした国際的にも活躍できる医師を育成する』には、従来の知識詰め込み型講義と見学型臨床実習中心の教育のみでは限界があり、学生が地域社会の現場に出て自ら体験し悩み考え、自分の力で問題を解決し人と触れ合うことが必要である。</p> <p>本学部では全国に先がけて平成 7 年度から地域の病院での臨床実習を実施してきたが、現在は関係教育施設群(病院 38 施設、診療所及び保健福祉施設 30 ヶ所)に拡大して診療参加型臨床実習を実現している。また、診療参加を促進するため、コア診療科での実習期間を各々 4～8 週間確保し、その他に、①臨床教授制度の導入、②ガイドブック作成、③継続的評価システムの構築、④大学内及び関係教育施設との教育の質の均一化、⑤FD、⑥安全性の確保と学生へのオリエンテーション、⑦4 年次までの準備教育の充実などの工夫を凝らしている。</p> <p>このように大学のみならず地域社会の現場での on-the-job training を徹底しているので、教育目標に合致し、社会のニーズにマッチした人間性豊かな医師を養成できるようになってきた。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>医学教育を受けて都会での就職が強いなか、地域社会への就業を目的としている三重大学の「地域社会を学びの場」とした医師養成が評価されました。また、早期からの診療参加型実習などの教育改革にも取り組んできました。臨床教員制度の導入、診療参加型実習ガイドブックの作成、医学医療教育開発推進センターや地域の医療機関との連携による実習の実施、学期毎の学生の能力評価制度は「特色ある教育」として評価できるものです。今後は、「癒しの心」の理解を深めるための教育の成果を、どのように測定し評価するのかその方法の開発が期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	京都大学	整理番号	1-3-029
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	相互研修型 FD の組織化による教育改善		
申請単位	大学全体		
申請担当者	田中 每実		
<p>(取組の概要)</p> <p>わが国の高等教育は、トップダウンの啓蒙型 FD 組織化段階を終えつつある。今日では、それぞれの現場にふさわしい相互研修型 FD の組織化こそが、求められているのである。</p> <p>「自由の学風」を理念とする京都大学では、すでにこれまでもさまざまな自生的な相互研修型 FD 活動が展開され、これらを支援するシステムも、高等教育研究開発推進センターを中核として開発されてきた。公開実験授業などからなるこの支援システムは、単に学内の教育改善を駆動するばかりではなく、全国的レベルでも、公開研究会やさまざまなメディアでの情報提供を通じて、教育改善の典型的なモデルとなってきた。</p> <p>今回の取組では、この支援システムを活用して工学部のトータルな相互研修型 FD 活動を支援し、そこから得られた知見によってシステムを整備・充実させ、これによって全学的な FD 組織化と教育改善の前進をはかる。これは、FD 組織化の今日の段階では、格好の実践モデルを提供するものとなる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、京都大学の教育理念である「自由の学府」のもとで、従来から、全学、部局、教員レベルでの様々な相互研修プログラムを行ってきたものを、さらに発展させ、自主的な相互研修型 FD 活動を全学レベルで組織化しようとするものです。すでに、全学共通教育や工学部などにみられるように、自生的 FD 諸活動とそれへの組織的支援によって大学の教育改善は着実に達成されてきています。</p> <p>わが国の FD 活動は、啓蒙時代から『相互研修型 FD の組織化』へと移行しなければならない時期にきていますが、京都大学では、前述したこれまでの実績を踏まえて、①ボトムアップの組織化の援助、②ローカリズムとユニバーサリズムの統合、③FD 第 2 期の実践的課題に応える汎用性の高い実践モデルの公開といった具体的活動を通じて組織化を一層進め、その成果をどこからでも簡単にアクセスできるものにするという取組をしています。これは、FD 第 2 期実践モデルの構築と公開を進めるものであり、その点で、他の大学、短期大学の参考になりうる優れた事例であるといえます。</p> <p>また、この取組には、今後、全学的に広げていかなければならないという課題も認められますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	岡山大学	整理番号	1-3-008
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	日本語力の徹底訓練による発想型技術者育成		
申請単位	学部単位		
申請担当者	塚本 真也		
<p>(取組の概要)</p> <p>岡山大学工学部の本取組では、他大学に先駆けて平成 7 年以來の実施で多大な効果を上げた「日本語力教育」(日本工学教育協会賞受賞、文部科学省事例集採択)を核にして、「発想教育」(日本機械学会教育賞、他 受賞)と「MOT 教育」を連携させることで、「発想型技術者育成」の教育方法を構築・実践している。発想型技術者を育成するには、「読み、書く、話す」の「日本語力」の徹底訓練が必須条件であるため、まず技術文章に対する学生の根強い反発を解消し、その意識改革を断行した。さらに、日本語力教育はソロバン・習字のように体で覚える実学的側面もあると判断し、20 時間の演習問題に繰り返し取り組ませた結果、学生の日本語力を格段に向上させることに成功した。この日本語力教育をベースにして、「発想ツール」による発想教育を習得させたところ、発想ツール訓練は学生にとって新鮮な経験であり、教育効果も非常に高いことが判明した。将来展望として、MOT 教育を組み込んだ本取組をさらに充実・拡大し、技術者教育のモデルとなる「発想型技術者育成中核拠点」の形成を目指す。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、岡山大学工学部が、大学全体の豊かな想像力によって考え、旺盛な課題探求能力によって発言し、優れた問題解決能力によって行動する人材の育成という教育目標を、「発想型技術者」の育成に定義し直して、その基礎となる「読む、書く、話す」日本語能力の徹底的訓練を開始したものです。1995 年以來、教員や学生の反発を克服して、日本語力教育の必要性への意識改革に取組、問題演習による徹底的訓練を行う、発想教育に成功してきました。</p> <p>この取組は、日本語教育について、共通の課題を抱えている全国の大学に対する先駆的な実践として期待できる事例といえます。まだ、岡山大学全体に行われていないことに問題が残されており、まず、身近なところにおいて、成果が上がることを期待します。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	東京医科大学	整理番号	1-3-064
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	医学生を対象とした臨床能力評価システム －Advanced OSCE と FD－		
申請単位	大学全体		
申請担当者	松岡 健		
<p>(取組の概要)</p> <p>本学の臨床医学教育への取組目的は「適切な診療態度と高い診療技能を備えた良医の育成」にある。その手法として、本教育の構築、1つは学習者に対して、客観的臨床能力試験 (OSCE) を Basic OSCE (模倣的) から Advanced OSCE (実践的) へと展開し、他は、指導者の FD を実施し教育評価の能力開発を進めた。この段階的 OSCE (Advanced OSCE) と FD の手法を用い、特色ある方法を確立した。本教育技法は、相乗することにより、結果として高い臨床レベルの教育効果が得られる。</p> <p>本学の OSCE 導入は 1997 年度に始まり、先覚的に研究・開発を進めてきたが、患者面接および各臓器分野の診断技法こそが医学生の安全かつ功緻な診断能力を開発しえると考える。一方、教員 FD の本学医学教育ワークショップは 1996 年より OSCE 評価等を中心に行われてきたが、この評価者トレーニングも倫理観を備えた医療技術の組織的教育を主体とするものであり、医学生および研修医に対しての適切な教育技法を提供するものと考えられる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、東京医科大学の「正義・友愛・奉仕」の建学の精神をもとに、良医育成を目指して、客観的臨床能力を評価するシステムを完成させようとする、平成 9 年から実施されている取組です。アドバンスト OSCE の 5 年次臨床実習の総括的評価としての導入、評価者トレーニングのための FD の平行した実施など意欲的に実施している点は評価できるものであり、申請書の将来展望に記載されているように、国家試験に導入しうるようなアドバンスト OSCE の開発は他大学等への影響も大きく、社会の要請にも十分応える優れた取組であると認められます。</p> <p>また、この取組は、国家試験としても使用しうるような試験内容の充実と評価システムの確立という挑戦的な課題を抱えていますが、これを克服し更なる発展を遂げることが期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	京都精華大学	整理番号	1-3-058
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	「自立した学習者による社会貢献の実践教育」 ～環境マネジメントシステムの構築を通じて～		
申請単位	大学全体		
申請担当者	中尾 ハジメ		
<p>(取組の概要)</p> <p>学生を自立した学習者として育成するために「環境マネジメントシステム（EMS）」を用いる取組。教育方法の工夫改善は以下の3点である。1）キャンパス全体と大学構成員全員（学生全員・教職員全員）にてEMSの認証を受けることで、体験学習を実施する実社会と同様の学習環境を提供し、さらに理論学習と体験学習を交互にカリキュラム上へ配置することで段階的学習過程・学習手法を構築し、全学的に自主的な学習者の育成支援を志向している点。2）体験学習の課題を実社会の現実的課題（環境への配慮・EMSへの対応）と設定し、解決支援を学生が自主的・主体的に行うことにより、社会貢献的志向を持つ市民の育成を実践している点。3）環境問題という地域社会問題の解決への協力を、全学的な教育活動の一環に取込みながら対応・支援し、体験学習フィールド（学外組織・機関）のEMS導入・認証という具体的かつ高水準の支援実績として結実させている点。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、京都精華大学の教育目標である「自立した人間の形成」を達成するために、体験主義と学際主義の教育を重視し、既に4年以上にわたって組織的に実施してきた環境マネジメントシステム教育の展開であり、内部環境監査と地域社会貢献としての学外実習に示されるように大きな成果を上げています。</p> <p>現在、大学には、グローバルな環境問題への対応や地域問題の解決が求められており、この取組はこうした社会の要請に十分応える優れた取組であると認められます。とくに、学生が学内だけでなく、学外でも社会的に評価できる水準での実習を行っており、この取組は他の大学、短期大学の参考となり得る優れた事例であると言えます。</p> <p>また、この取組には学生によるこの教育への評価や、学生の環境認識の変化を調査するとともに、学外実習の人員拡大という課題も認められますが、これを克服するならば、さらなる発展が期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	佛教大学	整理番号	1-3-027
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学生の人間力を育む福祉実習教育の開発		
申請単位	大学全体		
申請担当者	岡村 正幸		
<p>(取組の概要)</p> <p>本学の特色は、生活経験の乏しさやコミュニケーション能力の弱さといった学生の変化を肯定的に受け止め、学生の潜在能力を引き出す教育開発を組織的に行ってきたことにある。平成 12 年に福祉教育開発センターを設置し、教育方法の改善、個別指導の充実、教員間での課題の共有などを通じて、福祉現場に還元できる人材の育成に努めてきた。</p> <p>具体的には、福祉実習教育の充実を柱とし、①各学年の教育重点目標の設定、②10 名前後の少人数ゼミ、③実習希望学生全員を対象とした面接と個別サポート、④個別の学び・日々の基礎的な学び・発展的な学びの重層的な支援、⑤FD 活動の活発な取組み、などを強化し、「共生社会」を担う「人間力」を基礎に、福祉専門職の養成を行なっている。</p> <p>今後は、発展的学習を支える「リ・ユニオン・プログラム」の充実、併設施設「和順の里」における実習プログラム開発や福祉現場との共同研究を行い、教育方法の発展に努めたい。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、佛教大学の教育目標である「人類福祉の増進に貢献する」人間形成および「共生（ともいき）社会の実現に貢献できる活動力ある人材の養成」を達成するために、既に 40 年近くにわたって組織的に実施され、社会福祉実習の徹底した教育と組織整備に実証されるように大きな成果を上げています。</p> <p>現在、大学には、社会・経済構造、産業構造の急激な変化に対応できる特色ある教育が求められており、この取組の実習教育に特化したカリキュラムや学生へのきめ細かい指導、学内の組織的支援体制という点はこうした社会の多様な要請に十分応える優れた取組であると認められます。特に、前者の実習教育の指導については先進性も見られ、今後、学生には社会福祉領域での多様な実践力と人間的成長が求められつつあることを鑑みれば、この取組は他の大学の参考になり得る優れた事例であると言えます。</p> <p>また、この取組には、リ・ユニオン・プログラムの堅固な組織化が不明確という課題も認められますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	帝塚山大学	整理番号	1-3-049
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学生の自立性を高める教育学習支援システム －TIES ライブ塾とサイバーチューターを活用して－		
申請単位	大学全体		
申請担当者	中嶋 航一		
<p>(取組の概要)</p> <p>学生の多様な学力に配慮し自立的な学習意欲を涵養するため、帝塚山大学では 1997 年より e-ラーニングによる教育学習支援の取組 (TIES) を大学プロジェクトとして促進してきた。その結果、学生の個々の理解度と関心に対応した 2,000 に及ぶ電子教材を準備し、それらを利用した講義を全学部で展開することにより、学生の主体的な学習と学力の向上に成果をあげている。更に、社会で活躍する実務家とインターネットを介して連携し、社会の生きた体験と現場の情報をライブで授業に取り入れることにより、学生の学問に対する動機づけと大学教育の質の向上を実現している。また本取組で利用している TIES は他大学の教員にも自由に利用してもらえるようになっており、現在 8 大学の教員が TIES を通して教材の共有や授業連携に参加している。そして本取組が次に目指すものは、学生の自主的な問題発見と独創的な解決能力を育むのに有効な教育学習支援システムの開発とその実践である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、貴学が、教養教育により涵養された良心と品格、新時代の要請に応える実学的な専門教育による創造的な知性の開拓、自身の無限の可能性に対する学生の自信と誇りを育むという教育目標を掲げ、1997 年 5 月に経済学部から着手し、以後 1998 年における大学プロジェクトとしての選定を経て、2003 年度にその組織的な支援体制を構築したものです。</p> <p>1990 年代に入って以来、我が国の大学の学部教育をめぐって、学生の基礎学力の低下や主体的な学習意欲の喪失が指摘されつつありますが、貴学は「学生の自立性を高める教育支援システム」の構築によってこのような状況を改善することに努力しています。</p> <p>本取組は 3 つの特色をもっています。第一は学生の多様性の認識、教員側の工夫の必要性の認識及び大学の教育組織としての自覚という「哲学」が前提となっていることです。第二は、e-learning のシステムである TIES 運用に際し、教員の手作りによる大量の電子教材 (2004 年度 : 1985 種) を用意し、ライブ録画による教材をも併用し、学生の学習履歴の水準と対応させつつこれらを体系的に組み合わせ、他方で 1 授業に複数の教員と TA を配置しながら、きわめて綿</p>			

密な個別指導を実施なさっていることです。第三は、社会で活躍する人材が「TIES ライブ塾講師」として招請され、また学内における各部署の職員と教員が「サイバーチューター」としてネットを通じて学生の学習・生活・就職等を指導する体制が整備されていることです。これらの特色をもつ本取組は e-learning をまだ導入していない大学だけでなく、すでに導入している大学にとっても、有用な参考となるものと考えられます。

なお、将来は、卒業論文・卒業研究・体系的な実習報告など高度の集中性と創造性を必要とする科目を含む大学全体のカリキュラム体系の中で、TIES 方式適用科目をどのように位置づけるかが明確にされねばならないでしょう。また教材を共有する他の大学をどのような基準で選択するかに関する説明責任をも果たしていただきたいと存じます。

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	高岡短期大学	整理番号	2-3-003
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	小松 研治		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、生活者の視点を持ったものづくりの作り手と豊かな生活者（使い手）を養成することを目指した。ものづくり教育にあたっては、模擬社会としての大学環境を発想・実践制作・検証の場を利用することにより、制作技術だけでなく、モチベーション、使い手の視点、社会への参加意欲やコミュニケーション能力等を養成する。経営関連科目の履修、市場調査、異分野の学生による共同制作など融合教育を試み、また、実社会と同スケールの課題設定、大学が発注者となる模擬の受注制作、競争原理の導入、大学内外の第三者による評価などを工夫したことによって、履修学生の制作意欲・就業意欲の向上、実社会からの制作依頼など地域連携の誘発、教員のFDへの貢献、さらに大学構成員全体の大学への愛着心・生活者意識の醸成などの成果があがった。今後は、地域連携授業やインキュベーション教育事業など取組の範囲を実社会に広げていく。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、高岡短期大学において、「地域の多様な要請に積極的に応え、広く地域社会に対して開かれた特色ある短期大学を目指すと共に、我が国の短期大学の今後の運営及び教育研究の改善に資する」という設立趣旨に基づき、「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」を展開し、模擬社会としての大学環境を舞台にした実践型ものづくり教育を行い、生活者の視点をもったものづくりの担い手（作り手）を育成すると共に、大学環境の充実によって豊かな生活者（使い手）の育成を目的としています。</p> <p>すでに、平成4年度より「指物法」という授業において学園食堂厨房のスツール作りを開始し、その後、平成11年度には「家具製作」「造型工芸実習」「複合造形」等の授業において、実践型制作と融合教育に重点をおいた授業を展開するようになっていきます。このような授業形態は新しい形式の教育形態として注目され高く評価されます。また、制作された作品は、複数の教員や第三者によって作品評価とプロセス評価等において評価をされるなど教育的努力が高く認められます。</p> <p>教職員によるアンケートの結果で、多くの項目で高得点を得ており、学生が十分に利益を受けていることがわかります。また、平成8年以来、多くのマスメディアに取り上げられる等、今後、我が国の大学や短期大学の工学部を中心としたものづくり教育の参考となることが期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	湘北短期大学	整理番号	2-3-005
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	国際交流体験教育の多面的展開 —実践的コミュニケーション能力育成プログラム—		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	黒崎 真由美		
<p>(取組の概要)</p> <p>「英語に触れさせる」ことを通じて英語コミュニケーション力を養成する取組である。姉妹校協定を結ぶ豪州の 2 大学との間で、本学学生の 3 ヶ月留学／3 週間研修、豪州学生の 2 週間研修旅行受入、という双方向交流を長年継続している。特に前者では姉妹校教員を前期に本学に招聘し、日本で指導した学生が後期に留学するとき、現地でそのケアにあたるというユニークな仕組みを持つ。また後者では国際交流委員会という学生組織が受入プログラムの企画・実行にあたる。この活動により学生は英語のみならず、企画力や行動力を身に付けるとともに、日本の文化への理解を深めている。またその多彩なイベントは本学の一般学生はもとより、高校生や近隣市民にも開放されており、地域社会への貢献も果たしている。このほか誰でも気軽に英語が話せるイングリッシュラウンジ、高校生、大学・短大生を対象とする英語スピーチコンテストなど、多面的な取組を活発に行っている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、国際的なコミュニケーション能力を涵養するという教育目標を達成するために、「国際交流体験をベースとした教育により、たとえ未熟な語学力であっても臆せず対話できる、実践的な国際コミュニケーション能力を育成すること」をめざし、昭和 63 年から実施されている取組です。</p> <p>総合ビジネス学科の 3 ヶ月留学、全学科を対象にした短期海外研修、海外学生の受け入れ、イングリッシュラウンジ、英語スピーチコンテストなどの具体的取組の事例は、英語系の学科を持たない短期大学にも参考になる取組であると評価できます。また、グローバルコミュニケーションセンターを中心に全学的な取組がなされており、学生の負担を軽減するための種々の配慮がなされています。さらに学生主体の「国際交流委員会」により、学生が主体的に参加できる仕組みがとられており、地域社会や近隣の教育機関との連携においても成果が上がっています。</p> <p>今後は、このような国際交流体験によって高められた学生のモチベーションを、外国語能力の向上に結びつける語学教育の開発・発展に向けて、一層の努力と工夫を重ねることを期待します。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	鹿児島純心女子短期大学	整理番号	2-3-020
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	モチベーションを高める体験型英語教育 —全寮制と海外研修を活用する実践的カリキュラム—		
申請単位	学科単位		
申請担当者	堀江 美智代		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は実践的な英語運用能力と豊かな人間性を備えた国際人を育成することを目標とする。この目標のもとに、英語教育を知的な面のみならず情意面も含めた全人教育として捉え、体験重視の実践的カリキュラムを実施することを特色としている。</p> <p>①全寮制の英語学習寮、②1 か月間の海外研修、③交換留学生の受け入れ等々の英語体験を重視し、かつそれらを生活英語実習や卒業研究等の専門教育科目と密接に関連させることによって、学生のモチベーションを向上させ、教育効果を高めている。それは英語学習への意欲とともに、英語でコミュニケーションをとろうとする意欲や、さらに国際的視野を拡げ、将来にわたって豊かな人生を開拓しようとする意欲を育成するものである。</p> <p>また、本学独自のオーラルテストの開発と外部検定試験によって、実践的英語運用能力の客観的な測定に努めるとともに、FD活動の推進によって、本取組の教育効果を多角的に評価し改善に取り組んでいる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、英語学習寮、海外研修、交換留学生の受け入れなど、多様な体験的学習を通して、英語学習・英語でのコミュニケーション・国際的視野の獲得などへのモチベーションを高めようとする積極的内容を含んでいます。</p> <p>全寮制という学生にとっては恵まれた環境のもと、規律ある生活を送る中で、また全員がオーストラリアでの語学研修に参加できるという経済的にも恵まれた学習環境の中で、単に語学力の向上だけではなく、多様な人間関係の中から社会へ出てからの「力」も育もうとする大学側の姿勢には好感が持てます。また、過去 25 年間の実績にも裏付けられていることは、入学してくる学生にも安心感、信頼感を与えているに違いありません。</p> <p>このような意欲的な語学教育への取組は、全国の多くの短期大学の参考になる事例といえます。</p>			